

平成 24 年度 教員免許状更新講習・シラバス

講座番号	2	講座名	古典教育に活かす中国文学及び日本語・日本文学研究の成果					
担当講師	開催地	時間数	日程	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
石川 一 樹下 文隆 菅原 範夫 西本 寮子 柳川 順子	広島キャンパス	12時間	7月28日 ～ 7月29日	中学校・高等学校 国語科教諭	30人 (最少開催 人数3人)	講義	筆記	
到達目標	日本の古典文学の特質と展開について体系的かつ具体的に理解している。							
<p>【講座の概要】 伝統的な言語文化の理解に重点を置く新学習指導要領の特色を踏まえ、日本における古典知の形成と展開について考える。日中双方の視点でその特質と魅力を講じる「中国文学」、仮名遣いや和文の成立など平仮名をめぐる諸問題を考察する「日本語学」、古典文学の特質と展開を和歌・物語・謡曲などを視点として講じる日本文学の3領域で構成し、日本の言語文化について理解を深めることをめざす。</p>								
<p>【講座の内容】</p> <p>講義1：王朝人の捉えた白居易詩の魅力（担当：柳川順子） 唐代中期の詩人、白居易の作品は、平安朝の人々に大変愛好されたが、その受容のあり方は、必ずしも彼の文学全体を過不足なく受け入れるものではなかった。この差異に着目することは、日本文学の特質を、外側から相対的に捉える契機となるだろう。こうした視点から白居易の詩を精読し、これを日中双方の文学的座標軸の上に位置付けてみたい。</p> <p>講義2：平仮名文化の草創と展開（担当：菅原範夫） 平仮名は成立当初、消息など私的な場で使用されていたが、西暦900年ごろに文芸の世界で公用いようとする運動が起こった。『竹取物語』『古今和歌集』『土佐日記』などがその実践例であり、和文が発達していく様子が見られる。同時に平仮名は、『古今和歌集』の書写によって定着する。平仮名の発達と和文の展開について述べる。</p> <p>講義3：王朝人の教養基盤（担当：西本寮子） 平安時代の文学作品を読む際には漢詩文や和歌についての知識が欠かせない。作者と当時の読者が共有した教養基盤を知ることで、作品に対する理解が一層深まる。この講義では、『竹取物語』を例として白詩摂取の様相と創作のありようを具体的に検討したうえで、『枕草子』『源氏物語』に見られる高度に成熟した表現を分析し、平安時代の知識人の教養基盤と想像力について考える。</p> <p>講義4：和歌文学の実際と解釈の方法（担当：石川 一） 和歌における解釈とは、単に修辭的技法、歌枕探索などを駆使すれば達成できるというものではない。近年、比較文学などの研究方法の進歩によって明らかになってきている。そこで、古今集撰者の漢学的教養を確認した上で、和歌解釈上の問題点を検討し、和歌解釈という行為に「方法論」といったものが確立できるのかを考察したい。</p> <p>講義5：中世文芸における和漢の古典摂取（担当：樹下文隆） 中世以降の文学作品を読む上で、どのような和漢の古典に関する知識を当時の人々が常識として有していたかを理解することが重要だ。この講義では、謡曲の作品解釈を柱としながら、関連する中世の文学作品のいくつかを取り上げ、『古今和歌集』『伊勢物語』『源氏物語』などの王朝文学、また中国思想、歴史、詩文がどのように中世の人々に理解されていたかを考える。</p>								
<p>【備考】 試験の際には講義で配付した資料、ノートの持ち込みを認めます。辞書の持ち込みは認めません。</p>								

注) 予備日は8月4日(土)～5日(日)とします。